

第2 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しないが、以下のように可能な限り外国語によるコミュニケーション力を評価する。
 - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
 - ・併せて、高等学校において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
 - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる知識や技能についても、引き続き評価する。
- 問題は、高等学校学習指導要領「外国語」の目標及び内容等に対応したものとし、CEFR等を参考に作成する。

また、大学教育を受けるために必要な能力を把握できる問題とするが、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることも考慮し、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるようにする。

2 各問題の出題意図と解答結果

ここでは各問題を出題した意図及び解答結果についての問題作成側の見解を述べておく。

第1問 発音及び文法・語彙・表現に関する問題である。全体の難易度及び識別力はほぼ妥当であった。

A 発音変化に関する問題である。問1は鼻音で発音しないものを選ぶ問題であり、問2は濃音化しないものを選ぶ問題である。問1はパッチムが鼻音化するものとししないものを区別することが焦点になっているが、ネイティブ水準の語学能力を有している成績上位層の受験者であっても誤答を選択する傾向にあった。問2は濃音化する名詞に対する知識が求められ、識別力が高かった。

B 空欄を補う問題である。語彙・文法・表現について正しい理解をしているかを問う意図があるが、単にある語彙やある文法を知っているか否かを問うのではなく、当該の語彙や文法形態が具体的な文脈において他の単語等とどのように共起し、いかなる意味を実現するかという点に留意して出題した。全体的に、日本語母語学習者に重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。正答率の高い問題から低い問題まであり、問3・問4は成績上位層では正答率が高かった。本問題群は全体として様々な難易度の問題から構成されており識別力が高かった。

C 語句の整序問題である。この問題は新傾向の問題として、一昨年度から出題されたタイプのものである。韓国語は日本語と語順がほぼ同じであるため、韓国語文が日本語の直訳とならないようにし、韓国語としても自然な表現を問うことに重きを置いた。また、日本語母語学習者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。概して識別力が高く、問3は成績上位層の受験者を除いて比較的難しかったようである。

第2問 日常生活でよく使われる表現を素材にして、文脈に沿って対話を完成させる問題、対話の内容を理解し状況を把握する問題、会話の内容から招待状のデザインを選択する問題等を作

成した。全体的に使用語彙自体は難しくないが、状況を正しく把握する能力が要求される。

A 映画を鑑賞した友人同士の会話について、全体の流れや内容を正確に理解しているかを問う問題が中心である。なかでも問2と問4は他に比べて難易度が高い問題と思われる。

問1 会話全体を読み、状況を選択する問題である。会話の内容を正しく把握できていれば正答を導き出せる問題である。

問2 空欄補充問題である。前後の文脈の把握に加え、口語表現に精通していなければならぬため、難易度がかなり高い問題であったといえる。

問3 会話全体を読み、映画のストーリーに対するそれぞれの意見を要約した文と、人物名を結びつける問題である。本文の内容を正確に理解できていれば、正答にたどり着ける問題である。

問4 下線部の「そういうもの」が指す内容を、選択する問題である。選択肢の表現自体は難しくないが、文脈に応じたものを適切に選択することが求められる。他の問題に比べ正答率が低かった。

問5 会話文の内容と一致する文を選ぶ問題で、過去にも多く出題された形式であった。本文の内容を正確に把握していれば、正解を導くことができる。

B 招待状のデザインをめぐり、社長と顧客が繰り広げる会話と、顧客のスマートフォン上のやり取りを読み解く問題である。正答率は全体的に高かった。

問1 下線部の添付ファイルの内容に含まれていないものを選択する問題である。会話文を正確に読めていれば、正答を導き出せる問題である。

問2 空欄補充問題である。会話の流れに対する理解に加え、口語表現に精通していれば解ける問題であり、正答率も高かった。

問3 空欄補充問題である。会話の文脈を的確に理解していれば、正答にたどり着く問題であった。

問4 会話文の内容と一致する文を選ぶ問題で、過去にも多く出題された形式であった。全体の中でも、正答率は比較的高い問題であった。

問5 会話文の内容を踏まえ、招待状のデザインを選択する問題である。新郎新婦の服装と配置を正確に読み取ることができれば、解ける問題である。

第3問 表やグラフ、公共案内文、モバイル機器の画面など、日常生活で目にし得る素材を読み、その内容の理解を問う問題である。読解力や情報収集力を駆使しながら、多様な資料に対して柔軟に対応できるか、といった点が問題を解く上で肝要である。問題作成に際して検討を重ねてきたが、難易度のバランスを含め、適切な出題であったと考えている。

A 韓国ソウルの一週間の天気予報を表す絵及び気温（最高・最低気温）の情報を正確に把握し、その内容についての説明として適当なものを選ぶ問題である。選択肢は6つあるが、文の意味を理解し、情報をまとめれば取り組みやすい問題である。

B ある大学の学科で作成するジャンパー購入の案内文に関する問題である。案内文の内容を正確に把握し、その中の細部情報を取捨選択して収集する力が要求される問題である。

問1 案内文の内容に関する質問とそれに対する応答のうち、適当でないものを選ぶ問題である。それぞれの質問内容と応答に関する案内文の内容を探し出すことができれば正答にたどり着くことができる。

問2 案内文の内容を読み取り、実際に作成されるジャンパーの絵を選ぶ問題である。案内文からジャンパーの見た目に関する情報を正確に読み取ることができれば正答できる。

問3 本文の内容と一致するものを選ぶ問題である。選択肢の内容に関する記述が案内文の

どこにあるかを的確に探し出し、情報の一致不一致を判断する力が求められる。

C ペット文化教室の案内文を資料とした問題である。

問1 案内文の内容と一致する説明を選ぶ問題である。案内文に書かれている文化教室の開講目的を問う問題であるため、案内文の内容を細部まで読めば、選択肢の中にある正答にたどり着くことができる。識別力の高い問題であった。

問2 案内文と一致しない説明を選ぶ問題である。選択肢には、文化教室の終了後にホームページの掲示板に書き込まれた内容を選ぶ問題であるため、教育課程の内容を正確に把握すれば正答を選ぶことができる。

問3 案内文と一致する説明を選ぶ問題である。案内文全体の全ての情報を統合して解く必要があるが、選択肢の文と照らし合わせつつ、本文をたどれば容易に正答を導くことができる。

第4問 メディアとして長い歴史を持つラジオの特徴と長所を論じた評論を読み、その内容に対する理解度を問う問題である。本文の全体的な内容を踏まえ、漢字問題、空欄補充、下線部が示す具体例の選択、内容を要約した小タイトルの選択、内容一致の問題など、様々な形式の問題が出されており、適切な出題であったといえる。

問1 ハングル表記された漢字語の漢字表記を問う問題である。正答率はおおむね高かったが、「偏食」の「偏」から「偏見」を選択する問題は、やや正答率が低かった。

問2 本文の内容を踏まえ、下線部の理由として最も適当なものを選択する問題である。正答率は高く、難易度はやや低めであった。

問3 段落の冒頭にある空欄に入る語の組合せとして最も適当なものを選択する問題である。第4問の中では正答率が最も低く、段落間の関係を正確に読み取らなければ正答を導き出せないため難易度は高かった。

問4 文中の空欄に適当な副詞句を入れる問題である。正答率はやや低く、難易度は高めであったといえる。

問5 前後の文脈を把握して、提示された文を入れるのに最も適当な位置を選択する問題である。識別力の高い問題であった。

問6 下線部の内容を正確に読み取り、それを図示したグラフとして最も適当なものを選択する問題である。正答率が高く、難易度の低い問題であった。

問7 前後の文脈を把握して、提示された文を入れるのに最も適当な位置を選択する問題である。識別力の高い問題であった。

問8 提示された複数の文の中から、本文下線部の具体例として適当でないものを選択する問題である。識別力の高い問題であった。

問9 本文全体の内容を把握して、その内容を表現した日本語タイトルとして最も適当なものを選択する問題である。正答率は高め、難易度は高くなかった。

問10 本文全体の内容と一致するものを選択する問題であり、本文の内容を正確に理解することが求められる。⑤と⑥の2つを選択する必要があるが、正答率は低く、難易度が高かったといえる。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

今回の問題も昨年度と同様、実生活の中で接する文章を読んで問題解決を図る問題や、長文の中に漢字問題や文法問題を組み込むなどのこれまでの試みを定着させると同時に、並べ替え問題を出題するなど、実践的なコミュニケーション能力を重視した問題の作成を行った。

第1問に関しては発音や文法、語法の知識のみを問う問題であるという批判が依然としてあった。しかしながら、本部会では、コミュニケーション能力を問う前提として正確な発音・語彙・文法の知識を問うことは学習者にとって必要なことであり、中等教育と大学教育をつなげる共通テストの意義という観点からも妥当であるという見解を維持している。よって、今後も発音や文法問題はなるべく文章の中に組み込む努力は続けるものの、第1問のような形式の問題は存続させる方向である。

実用文の出題について、方式についてはいまだ試行錯誤中だが、問題の質自体は昨年度よりも更に向上した。問題中の情報量が多い点については、今後も問題の量を調整する努力を続けていく予定である。

長文問題は、読解力や思考力を問う論説文のみ1題を出題する体裁を維持した。漢字語や専門用語が多めではあったが、長文の分量、問題数など、全体としては適当であったと判断される。

昨年度に続き、今回の問題も、高等学校入学以降に学習を始めた生徒にも解答可能な問題であると思われる。今後もより一層良質な問題の作成を目指していきたい。

4 ま と め

「共通テスト」開始に当たって実用問題を取り入れるなど新たな取組がなされて今年度で5回目となるが、まだ課題は残る。実用問題における題材や形式については、新しい試みであるだけに様々な可能性がある一方で、大学入試問題として許容される実用文の範囲をどう定めるかという問題について、今後も検討を要する。長文問題は「共通テスト」になって以降、主に論説文から出題されてきたが、エッセイや文学作品、新聞記事など様々なジャンルの文章を出題できるよう検討していく必要がある。

全体の分量には常に留意する必要がある。使用語彙や文法項目、難易度等については、今後も現在の水準を維持していく。